

(2) 公民的公野

授業の見どころ

県社研が提案する授業では、GTはおなじみになりましたが、本時は、地方自治に対する関心を高め理解を深めるために、町長さん（VTR）や区長さんに登場していただきます。

教師はコーディネーターの役柄を演じ、町民生活の向上をリードする方々の願いを生徒たちに伝えるとともに、生徒たちの優しさに満ちたアイデアを導きだし、今後の行動力につなげていくことをねらっています。

義務教育最後の中学3年生が、どのような提案を出してくるか、今後のまちづくりにどのように参画・貢献していくのか、楽しみな授業です。



日時	平成15年1月25日（火）2校時
場所	長洲町立腹栄中学校 2階多目的ホール
年組	3年1組 33人（男子14人 女子19人）
指導者	長洲町立腹栄中学校 教諭 高木 一郎

1 単元名 「3 地方の政治と自治」

2 単元について

(1) 本単元は、これまで学習してきた国の民主政治の仕組みのあらましと関連させて、地方自治の基本的な考え方について、地方公共団体の政治の仕組みを理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与していこうとする住民としての自治意識の基礎を育てることをめざしている。

戦後、我が国は日本国憲法の第8章で地方自治を保障し、さらに「地方自治法」や「地方財政法」等でこれを具現化してきたが、現実には、機関委任事務や補助金制度等を通じて、明治以来の中央集権体制が続いてきたとされている。この体制が、政治・経済・社会のさまざまな分野においてそれぞれの機能を十分に果たせない状況をつくりだし、より自由で円滑な自治を妨げてきたと考えられる。このような構造を改革し、地方に応じた特色ある取り組みを行うために、「地方分権」を求める声が一層強まったことをうけて、国においては、平成7年に「地方分権推進法」、平成11年には「地方分権一括法」を成立させ、地方への権限委譲を推進している。

このような中、各地方公共団体は、財政の健全化や組織の改編、市町村合併等の新しい枠組みづくりに取り組んでいる。さらに、今日の「ゴミ処理問題」「人口問題」「少子高齢化問題」等の社会問題の解決及び活力ある豊かな地域づくりに向けた取り組みを、これまでの行政主導から、住民主導へと移行していくことが欠かせなくなっている。

これからの日本を担っていく生徒たちにとって、「民主主義の学校」とされる「地方自治」の学習を通して、その基本的な考え方や仕組みを知るだけにとどまらず、主権者の一人として、また、そこで生活する住民の一人としての自覚を育て、豊かな地域づくりのために自分たちにできることを考えることを通して、地域づくりに積極的に関わっていく態度を育てたい。

本題材では、「地域づくり」が教材である。「地域づくり」は、「地域の活性化」「地域おこし」「まちづくり」など様々な言い方がされており、地方分権時代の象徴として話題を集めている。これまでの「地域づくり」では、いわゆる「箱もの」をつくり、人を集め、経済的な面での活性化をめざしてきた自治体が多く、最近では、行き詰まってしまった感が否めない。そこで、各自治体とも地域や住民に根ざした「真の地域づくり」を始めている。

長洲町においても、これまでは、他の自治体と同じく「金魚と鯉の郷広場」や「ながす未来館」など、ハード面での整備を中心とした活性化を進めてきた。しかし、最近では、住民一人一人が「暮らしやすい、魅力のあるまち」を創るために、「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という住民参加の精神で、地域の現状や課題を話し合い、地域の活性化を主体的にすすめてい

く運動を展開し、「一区一創運動」と称している。

具体的には、長洲町の37の行政区が、「人を創る・物を創る・夢を創る・輪を創る」を目標に、スポーツによる地域住民のふれあい・地域限定商品の開発・ボランティアの推進・環境づくり等において、独自の取り組みを展開している。

また、昨年から中学生による「フレッシュモニター」制度が始まった。これは、まちの将来を担う中学生に町政やまちづくりに対する意見や要望を聞き、これからの「まちづくり」に取り入れていこうとする目的で行われている。昨年度は、本校の2年生6人が一年間にわたり活動してきた。

また、本校は、日頃から、保護者はもとより地域の方々からも多くのご支援やご協力をいただき、生徒たちを温かく見守っていただいている。本校の生徒たちは、そのような地域の愛情の中で育てられ、落ち着いた生活を送っている。しかし、中学を卒業すると、ほとんどの生徒は他の市町の高校へと進学してしまうので、この時期に、ふるさと長洲をこれからも愛し、いつまでも長洲町民として地域づくりに関わっていこうとする態度を養うことは意義のあることだと考える。

指導にあたっては、新聞や町の広報紙・Webページなどの情報を用いることで、地方自治を身近なものとして捉えさせたい。また、長洲町のまちづくりの方針を理解させ、区長さんへのアンケート結果等から課題をつかませ、その解決のために自分たちができることを考えさせることで、まちづくりに対する意欲を高めたい。さらに、役場のまちづくり課の方や区長さんをゲストティーチャーとして招くことにより、地域が中学生の考えや活動を必要としていることを認識させるとともに、地域の一員としての自覚を高め、生徒自身に住民の一人として、これからの長洲町を担っていくことを自覚させたい。

市町村合併の動きについては、少子高齢化や財政等の長洲町の課題と併せてふれていきたい。

- (2) 小学校の「身近な地域」の学習については、次のような内容となっている。

第3・第4学年：「町で働く人、町の施設」「ゴミ処理、水道の仕組み」「防犯、消防活動」
第5学年：「環境を守る生活と活動」「公害防止協定」「北九州市の環境改善」
第6学年：「倉敷市の福祉活動」「地域センターのできるまで」「琵琶湖汚染と住民運動」

中学校の公民的分野の学習では、「個人と社会生活」「人権と日本国憲法」「人権と共生社会」「現代の民主政治」「国の政治のしくみ」を学習してきている。

さらには、本校の総合的な学習の時間において、次の学習を行っている。

第1学年：長洲町の歴史・文化・祭りなどの調査学習
第2学年：修学旅行で訪問した沖縄県と長洲町の比較、地域の働く人々の姿に学ぶ学習
第3学年：地域に貢献するボランティア活動等を通しての学習

- (3) 本学級は生徒数33名の学級である。社会科の学習に対しては、落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組むことができ、2年生の時と比べると発表も少しずつ活発になってきた。しかし、自分の考えを人前で発表したり、資料をもとに思考・判断することは苦手な生徒が多く、知識の定着度も個人差が大きい。

また、アンケートの結果からは、「政治は、身近で自分の生活にとって大切なもの」と考えている生徒は少なく、日頃から、政治分野のニュースに関心を持っている生徒も少ない。そこで、授業において、新聞やニュースの内容紹介をしている。

さらに、長洲町の将来像や町づくりに対して関心を持っている生徒は多いが、現在、町が取り組んでいる「まちづくり」について知っている生徒は少ない。

なお、各地区で実施している「一区一創運動」については、次のような結果がでた。

知っている・・・8人 /33人
これまでに活動に参加したことがある・・・5人 /33人
一区一創運動がもっと魅力的なものになるならば参加したい・・・25人 /33人

3 単元の学習目標

- (1) 身近な生活と地方自治との関わりに関心を持ち、地方自治の諸課題を意欲的に追究できる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 自らの社会体験や様々な情報をもとに、地方自治の諸課題を多面的・多角的に考察し、自分の考えとして述べるができる。
(社会的な思考・判断)
- (3) 地方自治の仕組みや地方財政及び住民参加の方法等について、新聞や町の広報紙等の情報を適切に選択し、まとめ、発表できる。
(資料活用の技能・表現)
- (4) 地方自治の基本的な考え方や地方議会・首長の役割及び地方財政の仕組み、住民参加の方法、地方分権の重要性について理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

4 単元の指導計画(6時間扱い)

次	題 材	主 な 学 習 内 容	配 当
1	わたしたちと地方自治	地方自治の基本的な考え方 地方公共団体の仕事 地方自治の仕組みと地方議会と首長の役割	1時間
2	地方分権と住民参加	地方分権の動きと重要性 地方財政 住民参加の方法	1時間
3	地域づくり	長洲町のまちづくりの取り組みと課題 一区一創運動について 自分たちができるまちづくりを考え、提案しよう	3時間 (本時3 / 3)
4	わたしたちと日本の政治	身のまわりの政治 国の政治の課題	1時間

5 単元における基礎・基本

	基 礎	基 本
「社会的資質」 (社会的事象への 関心・意欲・態度)	地方自治について関心を持ち、地域の一員としての自覚をもって、政治に積極的に参加しようとしている。	地方自治の仕組みについて知り、町の特色や課題について、意欲的に調べて、発表や提案をすることができる。
「社会的な思考・判断」	自らの社会体験や様々な情報をもとに、町の取り組みや課題を考察し、よりよいまちづくりのあり方について自分なりに考えることができる。	地方自治のあり方について、様々な情報や具体的な事例をもとに多面的・多角的に考え、主権者・住民として自分にできることを考えることができる。
「社会的な探求の仕方」 (資料活用の技能・ 表現)	地方自治の仕組みや地方財政、住民参加の方法などについて、新聞や町の広報紙等の情報を自分なりに適切に活用できる。	新聞や町の広報紙等から、地方自治に関する情報を適切に選択し、自分の考えを持ち、まとめたり、発表したり、総合的に活用できる。
「社会的知識」 (社会的事象について の知識・理解)	地方自治とは何か、基本的な考え方や地方議会・首長の役割、及び地方財政の仕組み、住民参加の方法、地方分権について、理解することができる。	長洲町を例に、地方自治の仕組みや役割等を具体的につかむとともに、国の政治と関連しながら、なぜ地方自治が大切なのかをつかみ、自分たちには何ができるかを理解できる。

6 題材名 地域づくり ～長洲町のまちづくりについて考えよう～

7 本時の学習

(1) 目標

長洲町の住民参加のまちづくりである「一区一創運動」の活性化に向けて、自分の考えを発表することができる。

住民の一人であることを自覚し、地域の発展に寄与していこうとする意欲を持つことができる。

(2) 展開

学習活動	時間	教師の支援	教材・教具・資料	基礎・基本
1 「一区一創運動」の目的を確認する。	5分	前時の学習を振り返り「一区一創運動」の目的や現状を確認させる。	プロジェクター ビデオ(町長さん) フラッシュカード	
2 ゲストティーチャー(区長さん)の話聞く。	3分	区長さんの願い、地域の課題や悩み、「一区一創運動」への期待等を知り、中学生に対する期待の大きさを感じさせるとともに、課題を解決しようとする意欲を高める。	ゲストティーチャー (区長さん)	
自分たちにできる一区一創運動を考え、提案しよう				
3 自分たちの地区の課題を知る。	5分	区長さんの話やアンケートの結果をもとに、町や「一区一創運動」の課題をとらえさせる。 — 予想される視点 — ・少子高齢化・地域の結びつきの希薄化・環境問題・伝統文化の継承者不足など	学習シート 付箋紙 (区長さん)	
4 地区の課題の解決に向けて、小グループごとに自分たちにできる「一区一創運動」について話し合う。	20分	各グループの意見を確認しつつ適切な助言を行う。 机間指導をしながら、まちづくりに共感する気持ちや新しいアイデアを出そうとする意欲をたてる。	学習シート 付箋紙	(2)
5 グループごとにアイデアを発表し合う。	8分	各班のアイデアの良さを見つけて認める。 各グループの意見を学習シートにまとめさせる。	学習シート	(1)
6 各班のアイデアに関する、区長さんのご意見を伺う。	4分	生徒のアイデアについての感想や、将来の長洲町を担っていく中学生に対する思いや願いを語っていただく。	ゲストティーチャー (区長さん)	
7 感想や、町長さんへのお礼と提案のお手紙を書く。	5分	住民の一人として、地域の発展に寄与していこうとする意欲を高めたい。	学習シート	(1)

基礎・基本の定着を見取るための方法

(2) ……生徒の話し合いの様子や発表、ならびに学習シートの内容を確認する。

(1) ……生徒の様子や発言の内容を観察し確認する。

(1) ……学習シートの内容を確認する。

授業風景

